

## 家族を大切にしてお国柄が うかがえるアルゼンチン映画

グローバル社会の進展に伴ってか、映画においてもさまざまな国の人たちが関わって作り上げられる作品が増えている。それでも、映画には舞台となる国や監督の出身国などのお国柄が反映されることが少なくない。“アルゼンチン”と聞いて真っ先に思い浮かぶのはタンゴとサッカー選手だが、かの国の映画を観ると、登場人物の言動から“家族こそ大事”という思いが感じ取れる。

ふるさととは遠きにありて思うもの？

『笑う故郷』 製作年：2016年 上映時間：117分

アルゼンチンの田舎町を飛び出し、スペインで成功を収めた作家ダニエルは、名誉市民の称号を贈りたいという手紙を受け取った。40年ぶりに帰った故郷では、懐かしい人々と感動の再会…とばかりにはいかないところが、この作品の見どころ。他人の成功に対する妬み、恋敵へのジェラシーなど、剥き出しの感情、田舎町ゆえの窮屈さを見ると、故郷へ帰るのを少しためらう。

監督：ガストン・ドゥプラット／マリアノ・コーン 出演：オスカル・マルティネス、ダディ・プリエバ、アンドレア・フリヘリオ 発売元：オンリー・ハーツ 販売元：グラッソ DVD価格：¥3,900+税 © ARCO LIBRE, TELEVISION ABIERTA, MAGMA CINE, A CONTRACORRIENTE FILMS

家族は保障なのか、リスクなのか

『エル・クラン』 製作年：2015年 上映時間：108分



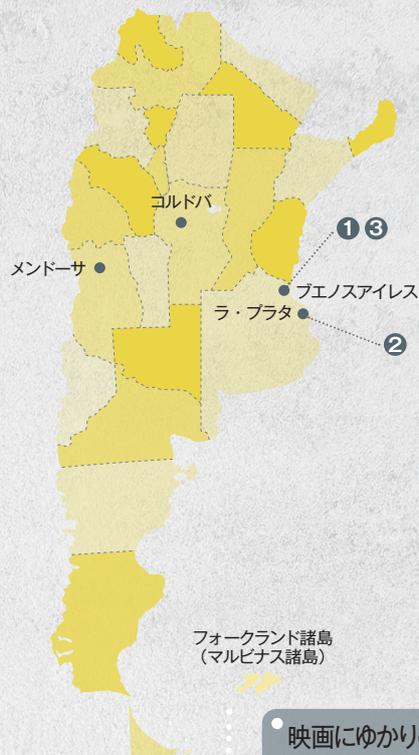
夫婦と子供5人のブッチオ家は、周囲も認める裕福で仲睦まじい一家だった。だが、政府の情報管理官だった家長・アルキメデスが、フォークランド紛争のあおりを受け失職してしまったことから歯車が狂い始める。社会的信用が高い人物による連続誘拐殺人という驚くべき話が、1980年代に起きた実話と知って背筋が凍った。“家長として家族を守らなければ”という思いが、狂気に駆り立てたのか。監督：パブロ・トラペロ 出演：ギレルモ・フランセーヤ、ピーター・ランサーニ、リリー・ポポヴィッチ 発売元：ブロードメディア・スタジオ 販売元：ハピネット DVD価格：¥3,900+税 © 2014 Capital Intellectual S.A. / MATANZA CINE / EL DESEO

意外なラストから本性が垣間見える

『ル・コルビュジエの家』 製作年：2009年 上映時間：103分



ル・コルビュジエは世界的に著名な建築家。彼が設計した私邸が舞台となるこの作品は、ある朝、隣人が窓が欲しいと壁に穴を空けるシーンから始まる。デザイナーのレオナルドにとって、強面で粗野な隣人はできるだけ関わりたくない相手。にもかかわらず、強引に壁に穴を空けようとしてくる…。隣近所との付き合いが希薄になっている昨今だが、隣家との付き合いを避けることはできない。“もし自分だったらどうする？”と考えずにはいられない。監督：ガストン・ドゥプラット／マリアノ・コーン 出演：ラファエル・スプレゲルブルト、ダニエル・アラオス、エウヘニア・アランソ 発売元：キュリオスコープ 販売元：アメイジングD.C. DVD価格：¥4,095+税



フォークランド諸島  
(マルビナス諸島)

### 映画にゆかりの アルゼンチンの観光地



① アルゼンチン空軍広場  
1916年、アルゼンチンの独立100周年を記念しイギリスから贈られた時計塔を中心とした広場で、もとの名称は英国広場。だが、フォークランド紛争を機に名称が変更された。



② ラ・プラタ  
ブエノス・アイレス近郊の町で、ラ・プラタ川をはさんで隣国ウルグアイに面している。町のメイン広場に建つカトリックの大聖堂はラテンアメリカでも有数の規模。



③ カミニート  
スペイン語で「小道」を意味するカミニートは、ボカ地区にある一角で、鮮やかに塗り分けられた建物が印象的。ファン・デ・ディオス・フィリベルト作のタンゴの曲名としても知られる。

(執筆／ライター 更田 沙良)